

はじめに

法人運営

令和6年度は、事業の安定した運営を目指し、いろいろな取り組みを実施した。シュシュの事業の二本柱である、支援事業と保育園事業において、それぞれ各事業のリーダー、施設長のもと、チームをまとめ、よりよい支援、よりよい保育を深めていく年となった。

まず、理事長の交代があった。前任の小俣陽子氏が、法人設立の2006年から20年近く理事長としてシュシュを支えてくれたことは感謝の念に堪えない。理事長として就任した木村瑠見子氏のもと、理事は一部メンバーが新旧交代し、監事にも新たにNPO法人むすびの荒川直美氏、シュシュスタッフOGの岩辺順子氏を迎え、法人運営がスタートした。20年近く続いたNPO法人すぎなみ子育てひろばchouchouを10年先、20年先も運営できるようにどうしたらよいかを考える年であった。その一歩として、事業拡大に伴い新しいメンバーが増えてきたので、この先のシュシュが目指すものを組織内で共有したいと考えた。そこで、10年後のビジョンマップを策定することにした。

ビジョンマップづくりでは、シュシュらしさを追求し、10年後の姿を想像して一枚の絵に描くことを目指した。全スタッフにシュシュの好きなところ、よいところを考えてもらい、10年後にどんなことをしてみたいかをアンケートした。その結果をまとめ、エッセンスを理事会の議論を経て抽出し、それに対してスタッフ、理事の間で意見交換を行った。10年後の姿を思い描くときにも、やはりシュシュのミッションに立ち返ることとなった。シュシュが目指すものは、地域での子育て支援であり、「誰もが生き生きと暮らせるコミュニティの創造を目指す つなげよう～笑顔のバトン～」というミッションの実現である。各事業が連携し、利用者がシュシュのサービスを使うことで切れ目ない子育て支援が可能となる。今やっていることを10年後も続けていきたい、いつでもシュシュを思い出してほしいという意味をこめて「おかえり」というキャッチフレーズを中心とした一枚の絵が出来上がった。一年かけてみんなで作った絵をこの総会でお披露目したい。(Fig.1)

令和6年度、法人全体として大きな意味をもつ取り組みを以下にまとめる。

まずは、ひとに関する取り組みが挙げられる。今後、ますます採用状況は厳しくなる見通しのため、長く働きたいと思える職場づくり、人材育成の環境整備が重要課題と考えられる。

令和6年度は、退職金積み立て制度の東社協への加入、借り上げ社宅制度（認可保育所に限る制度）の導入が実現した。このような取り組みもあり、ここ数年で20代、30代の若手職員の採用が進み、新しい風が入ってきた。また、産休育休から復職する者が1名、産休育休に入る者が2名いた。育児と仕事の両立は社会的にも大きな課題である。

人材育成の環境整備では、法人内の研修として、夏に「樹保育園研修」が実現した。毎日違うお子さんを預かる一時預かりと、毎日通う子の成長を支援する保育所とでは、それぞれの違いも大きいですが、子どもを中心とした子育て支援、保護者支援として共通することもたくさんあることを再確認するよい学びの機会となった。

第二に、デジタル化に関する試みを挙げたい。令和6年4月から杉並区の子育て応援券のデジタル化が始まり、スマホ上のアプリで応援券の支払いが可能となった。この流れを受け、シュシュ利用者でも現金を持たない人向けに、paypayを導入した。特に産後の家庭には現金がないことも多く、子育て支援サービスの利用のためにわざわざ現金を用意しに出かけねばならないことを考えると、paypay導入も子育て支援の一つに考えられる。また、樹保育園では、ICT化を進め、保護者との連絡帳アプリを導入し、紙ベースであった書類のデジタル化を進めた。どちらも保護者の声、社会の流れをうまくつかんだものであり、保護者に好評である。導入した一年目は職員は使いこなすことに精一杯だったが、今後はICT化による業務軽減の実現に期待したい。

第三に、地域とのつながり構築に関する取り組みがある。子育て関係機関ならびに地域個人、団体との連携、ネットワークの構築における新事業として、多世代居場所事業がスタートした。

シュシュが開催するフリーマーケットや季節のリトミックコンサートの人気も高まり、地域の様々な人たちにシュシュを認知してもらうことができた。樹保育園も開園当初から地域とのつながりを大事にしている。子どもたちは散歩にでかけることで地域の人たちとのつながりを経験できる。地域の子育て親子に対しては、保育所見学、保育体験、育児相談を継続的に実施してきた。また、小中高生の保育士体験、井荻中学、中瀬中学の職場体験を実施した。これまでも地域との連携に力を入れてきたが、今後は、顔合わせに終わるのではなく、少しずつでも地域と一緒に活気づけていく試みを探っていきたい。

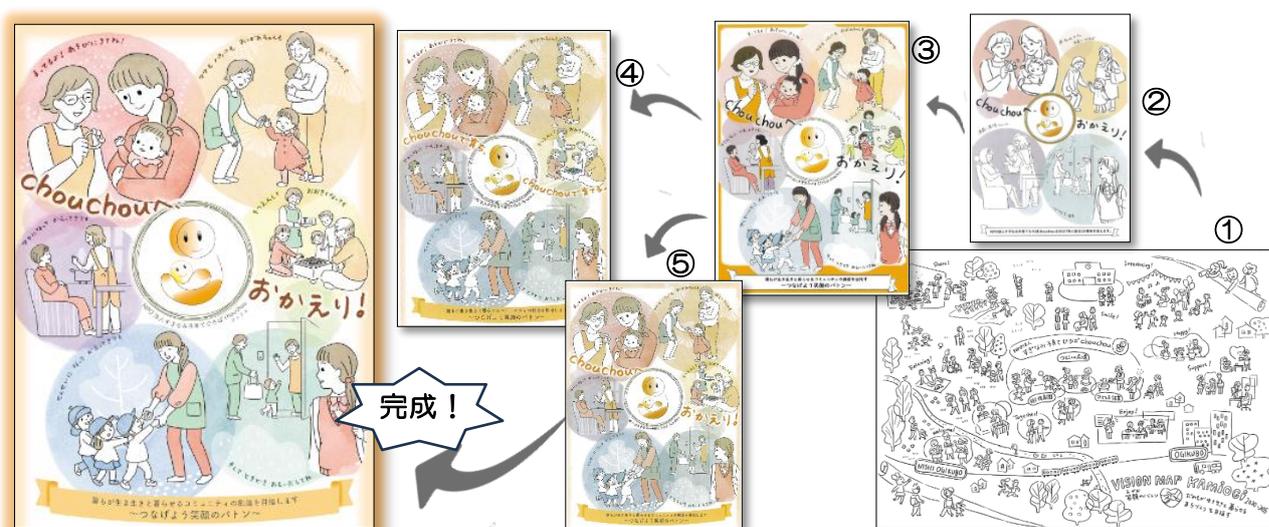


Fig.1 ～ビジョンマップができるまで～

広報

- ・ chouchou つうしん 隔月作成・配布 2000部×6回
- ・ 「クーヨン」2025年2月号(1/3販売)P.51 赤ちゃんカフェ掲載
- ・ すぎなみ協働プラザの団体訪問 You Tube 公開 2024年5/22 赤ちゃんカフェ
- ・ You Tube 「NPO法人すぎなみ子育てひろば chouchou 樹保育園 園紹介」All Movie Japan
- ・ シュシュの のぼり旗作成(Fig.2)
- ・ 交通安全ポスター作製協力 (株)日本廣報社
- ・ 樹保育園 採用Instagram
- ・ ホームページ シュシュ chouchou-suginami.com 樹保育園 itsukihoikuen-suginami.com

地域とのつながり

- ・ 5/26(日)・9/29(日)・1/26(日) フリーマーケット 開催 地域の方もブース利用として参加
- ・ 5/31(金) 子ども子育てプラザ下井草 子育て情報交換会 参加
- ・ 6/19(水)・2/12(金) 桃一小ネットワーク会議 出席
- ・ 6/27(木)・7/26(金)・12/20(金)・3/18(火) 杉並区子ども・子育て会議 出席
- ・ 8/17(日) すぎなみ協働プラザ NPO 交流会「こんな杉並区にしたい」 参加
- ・ 8/30(金) 桃一小学童クラブ お楽しみ会 参加(ご招待)
- ・ 9/6(金)・12/6(金)・3/7(金) 子ども子育てプラザ下井草 のび～のひろば 参加
- ・ 9/13(金)すぎなみ協働プラザ NPO 交流会「NPO 流お金の集め方使い方」 参加
- ・ 9/18(水)包括的支援サービス情報交換会 参加
- ・ 10/20(日)杉並つながるミーティング「子どもまんなかまちづくり」(岸本聡子区長講演あり) 参加
- ・ 11/10(日) すぎなみフェスタ 子ども向けゲームコーナー 出店(Fig.3)
- ・ 11/25(月) きずなサロン交流会 参加
- ・ 2/16(日) 上荻四町会寒中もちつき大会 参加

地域のイベント参加や法人主催のフリーマーケット開催などで、世代に関係なく地域の方へ広くシュシュの活動の周知を行った。



Fig.2 のぼり旗



Fig.3 すぎなみフェスタ出店

1 ひろば事業

1-1. つどいの広場上荻

事業日程	月・火・木・金・第4土曜 10:00～15:00 第2～5水曜日 11:00～16:00
場所	ドミトリー上荻Ⅱ1F(お茶の間ひろば茶ちゃ)
利用料	100円
従事スタッフ	11名 (内2-3名配置)
対象者	乳幼児親子他
年間利用組数	1542組



Fig.4 親子が遊ぶ様子

【概要】

地域子育て支援拠点として、子育て中の親子が気軽につどい、相互交流や子育ての不安や悩みを相談できる場を提供する。ひととき保育に併設される杉並区補助金事業。

【令和6年度の成果】

- ・ 近年の傾向で0～1歳児の利用が多かった。
- ・ 補助金上限が上がったことで、つどいの広場の周知のため、試験的に5月より「土曜日ひろば」のある週は「はじめまして無料週間」として利用料を徴収しない日を設けた。1週間を通して利用料を無料にしてみても、はじめは無料と知らず利用される方が多かった。土曜ひろばのイベントも無料で参加されたことで、ひととき保育の登録に繋がり、子どもを預ける前後の利用も増えた。つどいの広場やひととき保育の様子を知ってもらえるよい機会となった。
- ・ 9/5(木)から法人の「のぼり旗」を作成し9月からひろばの開催時間に設置するようしたところ、利用者、地域の方からもわかりやすいと好評だった。
- ・ 「出張子どもセンター」として荻窪子どもセンターの職員の訪問があり、利用者との対話。(9/25、2/26)
- ・ 年度当初は、午前中に遊んでお昼に帰宅、という利用が多かったが、正午前後の時間帯や終了時間際に30分でも遊びたいと来所される方も増えた。近隣の大型マンションに転居された子育て世帯の利用や家族がテレワークをしているため、自宅から外に行かなければならず、ひろばで過ごしたい、といった方の利用も増えた。(Fig.4)

～平日の活動～

- ・ 年度初めは、以前からの利用者が保育園の慣らし保育後に来所されることが多かった。その後0歳児が増え、午後から利用される日が増えた。
- ・ 5～6月は気温の上昇や悪天候日が続き、「屋外で遊べない」と話す利用者が多く見られた。
- ・ 7～9月は、猛暑日や天候不順であっても、終日利用者が途切れることがなかった。特に午後から終了時間までの利用が増えた。夏休み期間になると、幼稚園の兄弟児の利用もあり、

幼児の割合が増えた。

- ・ 10月以降は天候も落ち着き1日に4～5組の方の利用があった。中には連日足を運んでくれる方もいた。この頃より保育園の話題がよく聞かれるようになった。
- ・ 12月は1日の来所者が10組を超える日が何度もあり、無料週間中は、他の週の倍に近い数の利用があった。
- ・ 冬休み明けから連日6～7組の利用があった。その中でも「短時間でも遊ばせたい」と終了時間間際の利用も以前より見られるようになった。
- ・ 猛暑、ゲリラ雷雨、木枯らしの時季などの激しい気候の変化に左右されず、過ごしやすい室内環境で、スタッフの見守りがある安全な場を提供できることの大切さを実感した。

～土曜日の活動～

ひととき保育が休みとなる土曜日はイベントを企画し、ランチタイムを設けた。また平日に利用できない兄弟児や父親と子どもの利用があった。部屋全体を使い、ゆったりと過ごすことができた。

イベントにご協力くださった講師の方

- ・ 元保育園栄養士 林野朋子先生（5月 栄養相談・1月 聞いてみようご飯のこと）
- ・ リトミック講師 遠藤浩子先生（6月）・浦部真実子先生（9月）
- ・ あかり歯科理事長 与謝野明先生（7月 歯科医によるこどもの歯と口腔の話）
- ・ 靴房ATELIER TOUCH 内山知子先生（8月 足と靴のはなし）
- ・ ソニー生命ライフプランナー 斉藤伸次さん・渡邊悠太さん（10月 マネーセミナー）
- ・ Littlbirdy Yumi 先生（12月 英語であそぼう）
- ・ 樹保育園保育士 藤本ちとせ先生（2月 保育園の先生を囲んで）

～つどいの広場・ひととき保育・事務局との連携～

- ・ 分科会・防災訓練は、月に1回行うようにしていた。その中でそれぞれの部署から上がった問題点、気になる利用者、ヒヤリハットなど挙げ、「どのように対応、対処するか」共通認識を持つようにしている。
- ・ 利用者が増えていることにより「安心・安全に過ごしてもらおう」ため、スタッフ同士が声を掛け合い、共有スペースの活用など、お互い協力しながら運営するように心がけた。
- ・ 「産前産後ヘルパー」→「つどいの広場」→「ひととき保育」と利用される方が増え利用者もスタッフも情報の共有がし易い環境になってきている。
- ・ 今後、授乳スペースの設置やベビーシッター等、親族以外の方の付き添いによる利用についてなど検討していきたい。

～杉並区補助金上限額の変更の影響～

つどいの広場は杉並区の補助金事業としてひととき保育に併設される形で運営してきた。そ

の補助金の額は激しい社会情勢の変化の中でも、2007年の開始当初から全く変わることが無く、運営の安定は法人の自助努力に任されてきた。しかし、子育て支援拠点事業の運営費が国の要綱に示されていることを根拠に令和4年度から区に働きかけ、令和6年度事業分から補助金上限額が上がった。具体的な額は令和7年4月以降、区に6年度の実績報告をした後に決定するが、増額の見通しがあることで、まずは無料週間を設けた。また、ひろばイベントに講師を呼びやすくなり、利用者に還元できたことは大きい。更に職員の処遇改善にもつながった。

1-2. きずなサロン プチシュシュ

事業日程	毎月第4木曜日 9:30~11:30
場所	井草地域区民センター内 和室
利用料	100円
従事スタッフ	3名
対象者	乳幼児親子他、地域の方
年間利用組数	62組



Fig.5 季節の折り紙



Fig.6 広い和室で交流する様子

【概要】

社会福祉協議会のきずなサロンとして井草地域区民センターで開催している出張ひろば。対象を定めず、乳幼児親子他、地域の方が誰でも利用することができる居場所事業。

【令和6年度の成果】

今年度は祝日が重なることが無く、全ての月で開催出来たため、月1回でありながら出張ひろばを利用する方が定着した。開催日前日にSNSで告知したことが、参加者の増加につながった。

お茶を提供し、季節の工作とお土産のお菓子でくつろいでいただいた。また、体重計、身長計を準備し活用することで、子どもの成長を実感していただく場となっている。(Fig.5)(Fig.6)

行政からは上井草子どもセンターの職員の訪問もあり、その日はいつもより利用者同士の情報交換が活発だった。スタッフはきずなサロンの交流会や下井草プラザの会議にも積極的に参加し、行政だけでなく、地域の子育て支援団体とも交流した。

この一年、方南町や練馬区など遠方からの利用、また祖母の付き添いや両親での参加、妊娠中の方まで、様々な地域から沢山の方々が利用して下さった。出張ひろばとしての役割を果たすべく、

人と人を繋ぐひろばを意識して温かい雰囲気作りに努めた。今後もステキな居場所作りを地域と共に継続していきたい。

1-3. 赤ちゃんカフェ

開催日時	毎週水曜日 9:00～11:00
場所	ドミトリー上荻Ⅱ1F (お茶の間ひろば茶ちゃ)
従事スタッフ	5名 (内3名配置)
対象者	0歳児親子・妊娠中の方
利用人数	374組 (新規97組)
参加費	1,000円 (子育て応援券使用可) カフェ代別途50円



Fig.7 講座に聞き入る利用者(奥)と子どもを見守るスタッフ(手前)



Fig.8 クリスマスベルの足形アート

【概要】

0歳児の親子や妊婦に対して癒やしの場所を提供すると共に、育児相談や、育児に関する情報提供を行う。

【令和6年度の成果】

令和6年度は、参加人数が大幅に増加し、新規が100組近くに達した。色々な取り組みと周知を試みた結果だと感じている。

6月から定期講座が終了したリトミックを赤ちゃんカフェに取り入れて、第一水曜に新たに開催することにしたが、毎回10組以上の参加があり、ピアノと歌に親子で癒され、笑顔でリズムをとる姿が見られ大いに盛り上がった。飲み物とお菓子の提供は、親同士のコミュニケーションの場として継続しているが、リトミック時は安全を考慮して停止とした。

第二水曜は、既存の抱っこ紐講座と、新しい企画として栄養相談を隔月でおこない、両親で参加したり、時間いっぱい相談ができてどちらも満足度が高かった。

第三水曜は育児相談を継続した。赤ちゃんの相談だけでなく兄弟児の相談も多く、継続して来ることで親子の成長がみられた。

その他は、あかり歯科さんやマネーセミナー、足と靴の話 (Fig.7)を定期的で開催し、新し

い試みとしてわらべうたベビーマッサージや骨盤体操もおこなった。

スタッフによる企画としては、七夕、ハロウィン、おもちゃ作り、クリスマス足形アート (Fig.8) などをおこなった。また、終了5分前に絵本の読み聞かせとさよならの挨拶を導入することで、その後の時間に切れ目なく開催されるつどいの広場にスムーズに移行できるようになった。

赤ちゃんカフェに来るキッカケは、知人からの紹介が一番多く、HPやSNSの検索、ヘルパーなど、シュシュの他の事業からの紹介も多い。

月刊クーヨン12月号(クレヨンハウス発行)やすぎなみ協働プラザHPの団体インタビューに掲載されるなど、地道な広報活動で認知度も上がってきていると思われる。

2 預かり保育事業

2-1. ひととき保育上荻

事業日程	月・火・木・金曜日 9:00～17:00 第2～5水曜日 11:30～17:30
場所	ドミトリー上荻Ⅱ1F (お茶の間ひろば茶ちゃ)
従事スタッフ	10名 (内2～3名配置)
対象者	6カ月～小学校入学前までの登録した子ども
利用人数	1,541組
利用料	1時間 800円 (子育て応援券利用可)



Fig.9 新規購入したベビークラック



Fig.10 幼児に人気のミニキッチン

【概要】

ひととき保育は、保護者の方が仕事、通院、リフレッシュ等で子どもを預けたいときに、1時間以上30分単位で子どもを預かり、保育する事業。

【令和6年度の成果】

活動再開3年目となり、利用人数は引き続き安定している。

年度が始まってすぐに子育て応援券のデジタル化がスタートし、従来の紙の応援券、ベネフィットステーションの育児補助制度の利用、さらに法人のPayPayの導入により、利用者の支払い方法が多様化された。利用料の支払いが複雑になったため、授受の際により丁寧な対応を

心がけた。

低月齢児の利用が増えたので、ベビーラック (Fig.9)と、より使いやすい抱っこ紐を購入した。ひろば利用者を含め様々な月齢の子どもが利用するため、配置するおもちゃのチェックをし、事故につながるものはないかを分科会などで話し合い廃棄や新規購入をした。中でも幅広い年齢の子ども達から人気のあるミニキッチン (Fig.10)を新調した。

前年度から利用継続をされている方に加え、新規で登録した利用者もその後何度も利用してくださる方が多かった。ひととき保育を利用しない日につどいの広場に来所される方もあり、子育て支援の拠点となっている。また、今年度は「ママペルシュ」さんの紹介で利用につながるケースが多くあり、切れ目のない支援を行うことができているのを実感した。これからも利用する親子が笑顔になれる居場所として保育を行っていききたい。

2-2～3 子ども・子育てプラザ(天沼・善福寺) 一時預かり

【概要】

杉並区が設置し運営する地域子育て支援拠点施設である、子ども・子育てプラザ内に設置された杉並区在住の乳幼児の一時預かり施設。ひととき保育同様、保護者が仕事や通院、冠婚葬祭などの用事やリフレッシュしたいときなどに、一時的に子どもを預かり保育する杉並区委託事業。

2-2. 子ども・子育てプラザ天沼一時預かり

事業日程	月～金曜日 9:00～17:00 土曜日 9:00～16:00
場所	子ども・子育てプラザ天沼
従事スタッフ	13名 (内4～5名配置)
対象者	6カ月～小学校入学前までの登録した子ども
利用人数	2,312組
利用料	1時間 800円 (子育て応援券利用可)



Fig.11 家具の配置を工夫した室内

【令和6年度の成果】

一年を通して、非常に多くの方にご利用いただいた。特に年度末には定員いっぱいの為、登録、利用ともに希望通りに予約を受けることができず、お断りすることも多くあり心苦しくもあった。

子ども自らが遊びを選べる環境設定を行い、発達に応じた遊びを体験できるようにする一方、他の子との関わりも大切にし、お互いに良い影響となるよう促した。また、夏休み、冬休みなど幼稚園の長期休みには4～6歳の利用が増え、子どもたちの年齢の幅が広がる為、それぞれの子どもたちが安全に、また楽しめるよう年齢や経験に合わせた遊びを工夫した。

月に一回の分科会だけでなく、朝のミーティング、シフト交代時間の引継ぎなどを利用し、スタッフ間のコミュニケーションを密にとり、チームワーク良く保育できるよう心掛けた。

子ども・子育てプラザとの交流も積極的に行ってきた。子どもたちと一緒にあそびに行くの

はもちろん、月に一回の打合せだけでなく、プラザスタッフとプラザのひろば利用者（保護者）とで行うプラザミーティングにも参加した。またその都度、子育てに不安を感じている方や、子どもを育てにくいと感じている方など、利用者親子の情報を共有したり、より良い支援ができるよう話し合ったりするなど、良好な関係を築いてきた。

「親子の今に寄り添い、成長をともに喜びあえる場にします」という天沼一時預かりのミッションのもとに、保育への共通認識を高め、親・子にとってもより良い環境を整え保育していきたい。

2-3. 子ども・子育てプラザ善福寺一時預かり

事業日程	月～金曜日 9:00～17:00 土曜日 9:00～16:00
場所	子ども子育てプラザ善福寺
従事スタッフ	13名（内4～5名配置）
対象者	6カ月～小学校入学前までの登録した子ども
利用人数	1,761組
利用料	1時間 800円（子育て応援券利用可）



Fig.12 プラザ内のクラフトルーム

【令和6年度の成果】

開所から3年目を迎え、多くの方に利用していただくことができた。月の利用回数の上限である10回に達する利用や長時間利用も増えてきたため、おもちゃを午前と午後で入れ替えるなど工夫をし、楽しく遊べるようにしてきた。

幼稚園が夏休みや冬休みになる長期休業期間には、プラザ内にある広いプレイホールに行き体を動かしたり、クラフトルームで工作をしたりしたことで4～6歳児のお子さんも充足感を感じていると保護者からの声も聞かれた。（Fig.12）

スタッフは月1回の分科会で子どもとの関わり方や保護者対応の仕方を共有したり、朝のミーティングで個別対応の情報を共有したりするなど、安心・安全に保育できるように努めてきた。今年度は樹保育園への実習にも参加し、保育園での園児の姿を見て、子どもの発達を間近で見たり、保育士の園児への関わり方を学んだりし、一時預かりにも活かすことで保育力向上に繋がっている。

要配慮児の利用も増えており、利用するたびに变化する個々の成長に合わせた保育ができるよう、保護者から丁寧に聞き取りをし、安心してお預けできるように努めている。

子ども・子育てプラザ善福寺で開催される毎月の打ち合わせやプラザミーティングに参加し、情報の共有や利用者も含めた交流に努めている。

今後もスタッフみんなで考えた「親子の今を希望の未来へつなげよう」のミッションのもと、親・子ともに安心できる場所、笑顔になれる環境を提供できるように努めていきたい。

2-4. 集団託児

託児実施件数	15件（託児依頼件数18件）
従事スタッフ	毎回2名派遣
対象者	乳幼児
利用人数	21名

【概要】

集団託児は、主に講座などの開催時に依頼を受けて実施する託児で、その多くが杉並区からの委託によるものである。

【今年度の成果】

実施件数は令和6年度から約半減した。託児はイベントに区民が参加しやすいよう、事前予約の締切をできるだけ実施日に近づけたい、夜間や長時間受託できることが依頼者の希望であるが、受託側にとってはスタッフを確保するのに厳しい条件である。少しでも受託しやすいよう、依頼の有無の確定を実施日の2週間前と定め、2名程度で日中に対応できる内容とした。そのことが依頼者との希望と合致しないこともあり、件数が減った要因となっている。

託児児童は1～3名と少なく、月齢も幅広い。また、初めて対応する子どもがほとんどであるため、スタッフはより子どもが飽きないよう、性別や発達に合わせたおもちゃを選び、楽しく託児時間を過ごせるよう考慮しながら準備をした。例外的に、長年にわたって受けている定例会議での託児は毎回同じお子さんの利用があり、子どもの成長を見届けている。

【各一時預かりスタッフによる保育園研修】

一時預かりの保育スタッフのスキルアップのため、樹保育園での現場実習を行った。保育士試験に合格することで資格取得した保育士、現場研修経験のない子育て支援員を対象とし、ひととき保育上荻2名、プラザ天沼2名、プラザ善福寺5名の計7名が2日間体験した。

東京都子育て支援員の現場実習の内容を参考にし、実習スケジュール、記録、振り返りの仕方を樹保育園と事前に打ち合わせし、プランを立てて実行した。研修充実したものであり、参加したスタッフからは学んだことを一時預かり事業に活かしていきたいという感想があった。

(Fig.13) (Fig.14)



Fig.13 清掃をする研修生



Fig.14 水遊び指導の補助をする研修生

3 妊娠期からの子育てまでの情報啓発事業

3-1. 情報誌の発行

【概要】

シュシュの子育て支援事業を紹介するため、隔月で「chouchou つうしん」を発行している。

各事業の紹介や新しいイベントのお知らせ、2 か月分のカレンダーや会員やスタッフ募集のコーナーなどを設け、地域への事業の周知を目指している。

【今年度の成果】

シュシュつうしん 発行部数
vol.91 (5月発行) -vol.96 (3月発行) 6紙
各紙 約 2,000部 計 12,000部



シュシュの活動を20年間支えていただいた地域の皆様への感謝と、ニーズに寄り沿った幅広い子育て支援の内容を知ってもらい、子育ての力になれたらという思いを込めている。

児童館や保健センター、自治会の回覧板などに広く配布することで、積極的に情報集めをしなくても、子育てをしている方やその家族の目に留まり、少しでも多くの子育て支援へ繋がっていききたい。

また、研修などでの外部団体との交流の際には法人の資料として交換し、広い地域へのシュシュの活動紹介にも利用している。

その他、シュシュの活動を応援してくださっている方へ、活動報告として郵送している。

3-2. デジタルによる情報発信 SNS 発信

【概要】

ホームページ、SNS等デジタル媒体を駆使して、子育て世帯向けイベントやシュシュの活動の魅力を発信している。

<p>ホームページ</p> <p>週平均訪問者数 約 300人</p> <p>ブログ アップ数 30件</p>	<p>LINE</p> <p>発信件数 92件</p> <p>(登録件数 574人→709人)</p>	<p>Instagram</p> <p>発信件数 50件</p> <p>(フォロワー数 176人→303人)</p>

【今年度の成果】

2023年8月より開設したInstagramがフォロワー数を増やしたと同時に、LINEの登録者数も増え、若い世代へ向けた情報発信が着実に進んでいる。それに伴い各事業も利用者増となった。以前より情報発信として活用しているブログや、子どもとお出かけ情報サイト「いこーよ」の更新とあわせて、各媒体使い分け、より広くの世代に向けてシュシュの活動の魅力をお伝え出来ることを目指している。

3-3. 親子リトミックコンサート

事業日程	年4回 日曜開催 45分/回
場所	お茶の間ひろば茶ちゃ
従事スタッフ	講師 2名 事務スタッフ 各回3名
対象者	地域の乳幼児親子
利用料	1,500円（子育て応援券利用可）
参加人数 (各回定員35名)	サマー35名・ハロウィン35名・クリスマス34名・ひなまつり35名 合計139名



Fig.12 クリスマスコンサート



Fig.13 ひなまつりコンサート

【概要】

親子リトミックは親子のコミュニケーションの促進、他の親子との関わりのきっかけ作りを目的としている。

【今年度の成果】

定期レッスンの開催が令和5年度で終了したが、長年親子リトミック講座に携わってくださった先生と、少しでも音楽に親しむ場づくりを継続したいとの思いから、コンサートの機会を増やした。例年行ってきたサマーコンサート、クリスマスコンサート (Fig.12)に加え、ハロウィン、ひなまつりをテーマに開催した。

開催のお知らせを赤ちゃんカフェのリトミック開催日や土曜ひばでのイベントに合わせて告知することで、SNSでの発信をしなくても多くの方に認知され、申込開始から数日で定員に迫る勢いだった。

また、コンサート直前にリマインドラインを流すことで、急なキャンセルを防ぎ、キャンセ

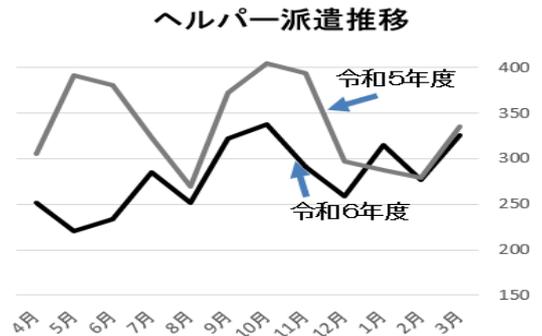
ルがあってもすぐにキャンセル待ちの方へつなぐことができ、毎回定員を満たした状態で開催することができた。

春のひなまつりコンサートは初めての「和」を取り入れたプログラムで、日本の春を感じる内容となり、珍しい楽器の音色に参加者親子が聞き入った。(Fig.13)

4 家庭訪問型子育て支援事業

産前・産後支援ヘルパー

事業日程	月～土曜日 9:00～19:00		
従事スタッフ	従事スタッフ 26名		
対象者	区内の産前・産後の家庭		
派遣時間	産前・産後	2316時間	子育て 応援券 利用可
	多胎	340時間	
	要支援	679時間	
	自主	35時間	
利用料金 (1時間)	産前・産後	1,000円	
	多胎	500円	
	自主	2,000円	



【概要】

産前・産後の家事や育児の支援が必要な家庭をヘルパーが訪問する、杉並区委託の子育て支援サービス。

【今年度の成果】

令和6年度は全体的にヘルパーの利用者数は減った。特に多胎児支援サービス利用者の減少が目立った。産後ケアサービスと東京都のベビーシッター事業を杉並区が導入し、利用者が分散したのも要因の1つと思われるが、ヘルパーの不調や活動中の事故で長期間休養するヘルパーがいたことも影響している。年度の後半に派遣数が回復していることにそれが現れており、1人1人のマンパワーの重要性を改めて認識した。

他の応援券事業同様、杉並区で応援券のアプリが導入され、それに伴ってシュシュのヘルパーでも8月からPayPayを導入した。

電子化の扱いにスタッフの戸惑いが懸念されたが、導入はスムーズで、PayPayを活用する利用者が徐々に増えて行った。現金精算が減ったことで、支払いが簡略化され、ヘルパー個人がお釣りを用意する必要がなくなり、スタッフ、利用者双方にとって精算手続きがとてもシンプルになった。

秋以降、利用者が少しずつ増加し、1年前と同様の件数に追いつくまでになった。一方で、感染症が全国的に広がる頃、利用者、ヘルパーともにその影響を受け、急なキャンセルも相次いだ。

要支援ヘルパーも、区の事業拡大と制度緩和で依頼が急激に増えた。中でも夕方17時以降、子どもが保育園から帰宅した後の派遣希望や3時間の最大時間での依頼が増えた。条件が厳しい中でも、対応できるヘルパーも増え、重要度は増している。行政機関が介入しにくいケ

ースへのヘルパー派遣は、家庭内に入って親子への関わりをもつことができる数少ない行政サービスとして、期待されている。

5 子育て関連ネットワーク構築事業

5-1 多世代居場所事業

事業日程	6月から毎月1回（土）または（日） 9:00～11:00 / 10:00～12:00 / 14:00～16:00
場所	ドミトリー上荻Ⅱ 1階（お茶の間ひろば茶ちゃ）
利用料	無料
従事スタッフ	2名
対象者	乳幼児親子他、地域の方
年間利用人数	大人43名 子ども14名



Fig.15 ハーブティとお正月遊び



Fig.16 バルーンアート体験

【概要】

多世代が交流し、誰もが生き生きと暮らせるコミュニティづくりに取り組むボランティア事業。シュシュを利用する乳幼児親子の他、シュシュ利用した経験のある卒業生、地域の方が参加し、自宅でもなく、社会的な所属場所でもない、第三の居場所を提供する。

【今年度の成果】

令和6年度は、事業開始に向けた準備期間とした。地域の方とネットワークを築き、事業実現に向けての議論対話を6回、対話の中で生まれたアイデアの実践を3回開催した。

6月からの議論対話の会には、多世代交流に関心のある地域の方（上荻、桃井、今川、阿佐ヶ谷、荻窪、西荻窪など）が参加してくれた。「ゆるっとおしゃべりみんなの居場所」と称し、多世代交流の場をどのように作っていいのか話し合った。話し合いの中で、「多世代交流」のイベントを単発的に進めるのではなく、何かのテーマを設け、それに関心のある人が集まったとき、いろいろな世代の人がゆるくかかわりあえる場を作っていくのがよいとなった。家庭、学校や職場でもない第三の居場所として、大人も子どももリラックスできる場所を目指すことにした。

1月からの3回は、話し合いの中で出ていたアイデアを実践した。シュシュ利用者や地域

の方向けに宣伝広報し、参加を呼びかけた。各回のテーマは、「1月：ハーブティとお正月遊び (Fig.15)」「2月：バルーンアート体験 (Fig.16)」「3月：おすすめの絵本を語る会」とした。どの回も、参加した人から楽しかったという感想をもらうことができた。

話し合いの中で、地域で活躍する方々に話を聞いたり、つながりを深めることができた。今後も定期的に「ゆるっとおしゃべりみんなの居場所」を継続していきたい。

講師役の皆さんのボランティア参加に感謝します。～Special Thanks to～

八丁通り商店会の小張さん・ゆうゆう桃井館の山崎さん・ゆうゆう上荻館の八谷さん・ぴっぴのもり保育園の上田さん・お抹茶の税理士 櫻井先生・ハーブブレンドスタイル協会の飯田さん・書籍「お母さんを支える言葉」の編集者の渡辺さん、腸もみ先生の浅香さん、バルーンアートの先生の朝枝さん、元ひろばスタッフ岩辺さん、(株)ケンコーマヨネーズの佐藤さん、シュシュスタッフで応援してくれた皆さん

5-2 多目的スペース「お茶の間ひろば茶ちゃ」の運営

事業日程	(土)(日)9:00～17:00
従事スタッフ	従事スタッフ5名
対象者	地域の方
利用件数	24件



Fig.17 フリーマーケット

【概要】

多世代が交流・利用できる場として多目的スペース「お茶の間ひろば茶ちゃ」を開設している。平日は法人事業で親子の居場所事業、一時預かり事業として活用。土曜、日曜の休日にスペースレンタルやイベントを行う。

【今年度の成果】

平日は法人事業でほとんどの時間を活用しており、レンタルスペースとして前年からの継続で Littlebirdy さんの利用があった。Little Birdy さんからは自身の事業啓発のため、赤ちゃんカフェや土曜ひろばのイベントにボランティアでの開催の申し出があり、協力して下さった。イベントは毎回好評で、ひろば事業の利用者促進につながり、シュシュと Littlebirdy 双方に良い効果をもたらしている。

また、法人内の事業も親子リトミックコンサート、フリーマーケット (Fig.17)、多世代居場所事業など、茶ちゃでの土日開催を企画し、より地域の方にこの場所を知っていただく機会となっている。

6 認可保育所運営事業

樹保育園

事業日程		月～土曜日 7:30～19:30					
従事スタッフ		正規職員 18名 パート職員 8名					
対象者 (3月31日現在 55名/59名)		0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児
	定数	3名	10名	10名	12名	12名	12名
	在園児	3名	10名	10名	12名	9名	11名
	欠員	0名	0名	0名	0名	3名	1名



Fig.18 栽培物のオクラで版画を楽しむ4歳児クラス Fig.19 英語レッスン中の3歳児クラス

【事業概要】

保護者が様々な事情でお子さんの保育が家庭でできない場合、保護者に代わって保育をする施設。開園3年目を経て、樹保育園の理念や保育方針が徐々に根付いてきている。

【今年度の成果】

- ・ 3年目を迎えたことで、認可保育園としてさらに保護者や子どもたちにとってより良い保育園を目指すために東京都福祉サービス第三者評価認証機関に依頼して第三者評価をしてもらった。結果を真摯に受け止めてさらに満足のいく保育園にしたい。
- ・ 各クラスの保護者代表の委員を通して意見を伺う運営委員会に今年度より外部の方を置き、客観的且つ公平な目を通して、保護者の方たちや保育園側の意見交換を行った。今後もさらに保育園を皆さんの力でさらに良いものにしていきたい。
- ・ 令和5年度までは卒園児が5名という少ない人数だったが、6年度は11名で2階の幼児保育室がいっぱいになる人数で卒園式を終えることができた。
- ・ 地域の子どもの職場体験の場として毎年中学生を受け入れている。今年度は初の試みで一時預かり事業のスタッフの研修を受け入れた。保育現場ですぐに活用できるスキル獲得を目指すスタッフは、職場体験とは異なり、お互いに実習の結果や成果を振り返ることで、今後、学生の保育士実習を受け入れる準備としてよい経験となった。

【事業内容】

- ① 秋祭り…9月20日(金) I部 16:30～17:10 II部 17:30～18:10 入れ替え制
内容: 盆踊り・お店屋さんごっこ・ゲームコーナーなど

- ② 遠足…10月4日（金）9：00～14：00 六都科学館
対象：4歳児クラス8名 5歳児11名 合計19名 職員3名
- ③ お弁当持ち散歩…10月11日（金）9：45～12：20 桃井原っぱ公園
対象：3歳児クラス 12名 職員 担任2名+主任
- ④ 運動会…11月5日（土）9：15集合 9：30開始～11：30終了桃井第一小学校体育館
対象：2～5歳児クラス親子参加 ★3回目なので子どもたちの場所慣れは進んでいる。
- ⑤ 第47回保育まつり…12月11日（水）13：15～14：55
対象：5歳児クラス 11名 職員 担任+主任
内容：劇団角笛による影絵 ★今年場所が杉並公会堂に戻ったので、近くて行きやすかった。また例年午前の部だったが、今年は午後の部でお昼寝なしでの活動となった。
- ⑥ 卒園式…3月19日（水）10：30～
対象：5歳児 11名 保護者 22名 4歳児全員列席、3歳児代表（プレゼント）
職員 園長・主任・副主任・担任・卒園プロジェクトメンバー
- ⑦ 卒園遠足…3月21日（金）9：30～15：00 石神井公園
対象：5歳児クラス 職員
- ⑧ お別れ会…3月31日（月）15：50～
対象：5歳児+退職者（高木・北見・長井） その他在園児、職員参加



Fig. 20 卒園制作
(式台・ピアノ台カバー)リリアン編み

Fig.21 4歳児からの
プレゼント「コルクボード」

Fig.22 3歳児からの
プレゼント「ペン立て」

7 今後に向けて

令和7年度は、1年かけてシュシュスタッフと理事の間で議論を重ねて完成した「ビジョンマップ」を皆で共有し、事業の安定した運営を目指す。令和8年度にはシュシュ20周年記念イベントを予定している。この先、5年、10年の具体的な計画を立てていく。

NPO法人すぎなみ子育てひろば chouchou は、これからも地域の人々とともに、子育て支援事業、保育事業を基軸として、強みである「地域の力」を発揮しながら、妊産婦、乳幼児親子に対して、切れ目のない子育て支援を多角的に展開していく。予想以上の速さで進む少子高齢化社会で、必要とされる子育て支援は何か、そして私たちは何をすべきか、常に前を向いてその可能性を探る。そして、誰もが生き生きと暮らせる街、子育てしやすい街、住み続けたい街、働きたい街、笑顔あふれるコミュニティの創造を目指す。